

## 地方農業のプライド

ライター三浦元吾 エディター大友有人

畑のすぐ隣には、野菜がずらりと並べられた販売所が設けられている。しかし、そこで野菜を売る人の姿は見当たらない。「ここにお金を入れてください」と手書きで書かれた箱が置かれているだけだ。箱にお金を入れ、野菜を手にする人の姿もしばしば見られる。

お金を支払うか否かは完全に客の誠実さ次第。あくまで農家と客との信頼関係で成り立っているのが、無人野菜販売所のスタイルだ。時には盗難に遭うこともあるそうだが、そもそも、多くの農家は利益を目的として無人野菜販売所を運営しているわけではない。外部に出荷する際の規格に満たなかった、いわゆる「訳あり野菜」を、近所付き合いまたは地域へのサービスといった気持ちで販売しているのだという。

しかし、販売されている野菜は新鮮なものばかりだ。というのも、外部の業者を介してスーパーなどに卸される場合と異なり、出荷に時間がかからないからだ。採れたての野菜本来の美味しさを味わえるのが特徴だ。

東京 23 区内で最も広大な農地面積を誇る練馬区。区内には 100 以上もの無人販売所や直売所がある。それらの販売所を“練馬の無人販売所マップ”というサイトで紹介しているのが、株式会社まちいろだ。代表取締役である蓮田健一氏は、実際に農地に赴き、収穫の様子などを取材し、サイトでそれを紹介する取り組みも行っている。「農家の方のリアルな顔が見えれば良いなと思って。」蓮田氏はこう語る。作り手の顔や人柄を可視化し、農家の方の人間味に触れてもらうのが狙いだ。

IT 企業で働いていた蓮田氏は、東日本大震災が原因で経営が傾きかけた両親の会社を継ぐことになった。そこで蓮田氏は、練馬区の特徴を活かした、何かユニークなビジネスをしてみたいと考えた。そんな時、外国ではあまり見られない、無人野菜販売所に焦点を当ててみてはどうか、という妻からのアイデアを基に“練馬の無人販売所マップ”を始めるに至った。

蓮田氏の取組みがきっかけとなり、練馬の野菜を使ったバーベキュー大会も企画されている。区内の農家の方や野菜販売店が集まり、多くの区民も参加する、大規模なイベントだ。“練馬の無人販売所マップ”が農家の方、野菜販売店、そして地元の人々をつなぐプラットフォームの役割を果たしている。

農業を一つの足掛かりにして、人と人がつながる、魅力ある町をつくりたいと考える蓮田氏は、最後にこう語った。「地元の人たちが自分の町を好きになってくれれば素敵だと思う。」